

令和3年7月19日

愛知県教育委員会 教育長 殿



園児児童生徒のマスク着用要請についての請願

住所

団体名 愛知こどもの幸せを考える会

共同代表 飯田 英理子

1 請願の趣旨

私たちは我が子にマスクをさせていては安心して学校に通わせることができません。無症状または健康な子どもが同じマスクを長時間着用していることによって、新型コロナウイルス感染症の予防になるという確かな科学的根拠はなく、一方で健康被害等の弊害のリスクがあまりにも大きいため、児童生徒へのマスク着用要請は不要と考えているからです。

そもそもマスクがウイルス感染症を予防するという高度なエビデンスレベルの科学的根拠はなく、また、マスク着用要請には法的根拠がありません。マスクは短時間の使用を想定したものであり、医療現場のように頻繁に取り換えてこそ効果がありますが、学校での子どもたちは素材を問わずに同じマスクを一日中着けており、マスクの使用法を根本的に間違えています。

学校が健康な子どもにもマスクを要請している根拠は、無症状感染の可能性があるとされているからです。その確率は厚生労働省のHPによると0.4%と大変僅かです。また、学校や子どもは感染媒体になっていません。子どもは重症化もしにくく、死亡者も未だゼロです。

マスク着用要請をなさる側は、以上の非科学性や非合理性の指摘を受けても自ら検証することはなく、また保護者への説明責任を果たしていません。子どもの心身の健康や発達を阻害し、一生に渡っての障害ともなりかねないマスクの弊害についても検証や周知をしていません。

息苦しかったら、暑かったら、マスクを外していい、と教師が子どもへ声掛けするとの説明がありますが、今年2月高槻市で起きた児童の死亡事故において、ご遺族の方はマスクが全て悪いとはなさらないながらも「児童や生徒にマスクを着けるか着けないかの判断を委ねないでいただきたい」と訴えておられます。

子どもが必要時に自ら外せなければ命を失う危険さもある物を、なぜ大事な呼吸器官に押し当て続けなければいけませんか？

園児

でしょうか？ 新型コロナウイルス感染症自体の自然の摂理としてのリスクと、感染症対策によって生じる人為的なリスクを俯瞰的かつ長期的な視点をもって比較検証すれば、健康な子どもにはマスクをさせてはいけないという結論になるはずだと考えています。

教育に関わって下さる全ての方々と同じく、私たちは子どもたちの生命と健康を守りたいという願いを持ち、また、社会に生きる者として公衆衛生を尊重しています。しかし、新型コロナウイルス感染症蔓延の予防手段として現状のようなマスクの常時着用は不適切であり、子どもには特に不必要かつ有害であると判断します。

2 請願項目

- (1) 健康な子どものマスク常時着用による感染症の予防効果は不確かであり、健康と発達を損なう弊害のリスクが大きいと考えますので、学校での児童生徒へのマスク着用要請を可能な限り早く廃止するようにお願いします。
幼稚園 園児
- (2) 廃止がすぐには実現困難である場合は、当面の間、我が子のマスク着用について保護者が自由に判断してよいことを認めるようにお願いします。すでに文部科学省は、ノーマスクで通わせると保護者が宣言すればそれを教育委員会や学校は拒否できないことを認めています。
- (3) マスク非着用を選択した子どもに対して、いじめや差別が起きないように学校に指導するようにお願いします。
幼稚園
- (4) 熱中症の予防のため、マスクを外すべき気温・湿度や WBGT の基準値を定めるようにお願いします。また、基準値を超えた時には教師が児童生徒全員にマスクを外させる指示を明確に出せるようにお願いします。
園児
- (5) 登下校時、体育の授業、屋外で少しでも運動をする時には、マスクを外させるようにお願いします。その際、子供自身が非難を受ける恐怖心を抱かなくてすむように、2m の身体的距離をとるという条件を付けない、もしくは緩和するようにお願いします。

3 請願の根拠とする参考資料など

根拠とする資料などを整理してお伝えしますので参考になさって頂けますようお願いいたします。

1. 保護者の決定権

文部科学省 健康増進食育課（『学校における新型コロナウイルス感染症 に関する衛生管理マニュアル ～「学校の新しい生活様式」～』の直接の担当部署）は、保護者が我が子にマスクをさせたくなけれ

ば、教育委員会や学校はその権利を拒否できないことを認めています。(1)

2. 教育委員会のガイドラインと現場の乖離

体育時のマスク着用は原則として不必要のはずであるのに、実際には未だにマスクを外す指導が行われていない事例があります。例えば名古屋市のある市立小学校は、7月中旬正午頃の暑い時でも運動場で児童がほぼ全員マスクをしたままハードル走を行っていました。別の市立小学校では教師によって対応にばらつきがあり、ある学年では6月にリレーでほとんどの児童がマスクをしたまま走っていました。「外してもいいという声掛け」ではなく「外すようにという指導」に変えてもらえるまでには、保護者が校長や担任の教師に何度も訴える必要がありました。

3 新型コロナウイルス感染症についての考察

A. 子どもは新型コロナウイルス感染症の主な感染媒体になっていない

①10代以下の子どもにおいては死亡者、重症者はゼロ。(2)

②子どもは感染しにくく、感染させにくい。

③新型コロナはまず大人社会で広がり家庭を通して子どもに感染しており、インフルエンザと逆ルートである。大人社会が継続されているのに、学校でたった一人陽性者が出たら学校を閉鎖というのは乱暴すぎるのではないかという意見がある(文部科学省動画 長崎大学小児科学専門 森内浩幸教授)(3)。

B. PCR 検査への疑念

①感染性の証明にはならない。(厚生労働省国会答弁)(4)

②新型コロナウイルス感染症用の RT-PCR 検査はドイツのドロステン氏が開発したが、その過程と論文に多くの問題点があることを国内外 22 人の科学者によって指摘されている(5)。

③名古屋市の Ct 値のカットオフ値は、名古屋市新型コロナウイルス感染症対策室によると³⁰~~35~~から³⁵~~40~~であるが、政府発表資料ではウイルス量は低いが検出可能な範囲(Ct 値 33-35 を超える場合)では、ほとんど培養陰性(ウイルスは分離されない)。そもそも資料中のグラフなどは雑なもの。(6)

C. 無症状感染者からの感染の可能性は低い

厚労省は HP で新型コロナウイルスの無症状感染の可能性を指摘しているが、根拠とする台湾からの論文には、無症状感染の確率は 0.4% であると報告されており、また、無症状感染の確率は皆無であるとの報告もある。したがって、無症状の新型コロナウイルス感染者と濃厚接触しても、感染しない確率は 99.6% 以上。(7)

4 マスクによる弊害

①脳の酸素不足により、脳機能が損なわれていき、元に戻らない。(8)

②子どものマスク内は二酸化炭素が超高濃度。(9)

③サージカルマスクは短時間の使用を前提にしているため、1枚の同じマスクを長時間着用しているのは非科学的(医療現場は対応ごとにマスクを交換するため、一日に何枚も使い捨てにしている)。(10)

- ④ マスクに付着した細菌やバクテリア、真菌が繁殖し、肺炎等の病気に掛かりやすくなる。
- ⑤ ウイルス核のエアロゾル化を促進し、肺の奥深くまでダイレクトに到達するため、重症化の原因となり得る。(11)
- ⑥ 口呼吸になりやすく、免疫力の低下を招く。(12)
- ⑦ コミュニケーション能力の減退を助長する。(13)
- ⑧ 不織布やポリウレタンなど化学繊維等の素材によるマスクから、発癌性物質等が吸入される。(14)
- ⑨ 使用済みマスクは極めて不衛生な状態である。(15)
- ⑩ 海外の科学者たちによるマスクの弊害に関する論文がある。
 - ・ドイツの大学による親へのアンケート調査の統計(16)
 - ・ドイツの研究チームによるマスクの健康への悪影響(17)
- ⑪ 熱中症のリスクが高まる（文部科学省『学校における新型コロナウイルス感染症 に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～（2021.4.28 Ver.6）※ 2021.5.28 一部修正』46 ページには、「気温・湿度や暑さ指数（WBGT）が高い日には、熱中症などの健康被害が発生するおそれがあるため、マスクを外してください。」との記載があり。）
- ⑫ マスクをして会話をする事で微生物の受け渡しができずに免疫を上げる事が妨げられ、余計に感染しやすい身体になってしまう（豊中市 かねしろクリニック 院長 金城 信雄氏）

5. マスクの有効性を示す科学論文のうち 1a、1b といった高度なエビデンスレベルのものは存在しない。
- ・昨年のオランダにおいてのランダム化比較試験（RCT）では、マスク着用と非着用で有意差は出ず。(18)
 - ・インフルエンザウイルス感染症に関しての RCT メタ分析でも同様。(19)
 - ・厚生労働省のマスクの有効性の根拠は脆弱（東大マネキン実験は 20 分後のマスクの状態を示したに過ぎない）。(20)

6. ~~文部科学省~~、名古屋市教育委員会はマスクの着用は新型コロナウイルス感染症の拡大防止に効果があるという科学的根拠を立証する文書を保有していない。(21)

7. 名古屋市教育委員会は、子どもの長期間かつ長時間に渡るマスク着用が、心身の健康および発達を阻害する可能性を医科学的に考察、検証した過程とその結果を示す文書を保有していない。(22)

8. 本来のマスクの役割と位置づけ（厚生労働省 HP より）
- ・症状等ある人が飛沫によって他人に感染させないため。
 - ・新型コロナウイルスを含む感染症対策の基本は、手洗いや咳エチケット。
 - ・咳エチケットはマスクを着用する、ティッシュ・ハンカチで口・鼻を覆う、袖で口・鼻を覆う。(23)

9. マスクは感染症対策としては逆効果

- ・アメリカ諸州や諸外国のデータより、マスクの義務化は新型コロナウイルス感染症の抑制には寄与しなかったことが示唆されている。(24)

10. 子どもの声(25)

- ①アメリカ 小学5年生の男の子
- ②日本 小学1年生の男の子

11. 高槻市教育委員会 体育時の死亡事故資料 及び 高槻市市議会議員による議事録

- ・調査報告書(25) 26
- ・保護者の方によるツイッター投稿 (26)²⁷
- ・高槻市市議会議員 北岡 隆浩 氏による議事録 (27)²⁸

12. マスクヒヤリハットアンケート (アンケート結果は教育委員会のみ) (28)²⁹

ある保護者が子供のマスク着用による健康被害やヒヤリとした事例をアンケートにより集めたもの。

13. 子どものマスク自由化への全国署名(29)³⁰

約一カ月で全国から 5,640 名のオンライン署名が集まった。

14. イベルメクチンに関する考察 (30)³¹

ワクチン接種もせずにマスクを外すのは危険であるという意見に対する反論として、イベルメクチンなど安全性が高く新型コロナウイルス感染症に有効とのデータと実績がある安価な薬品の活用を提案する。

以上